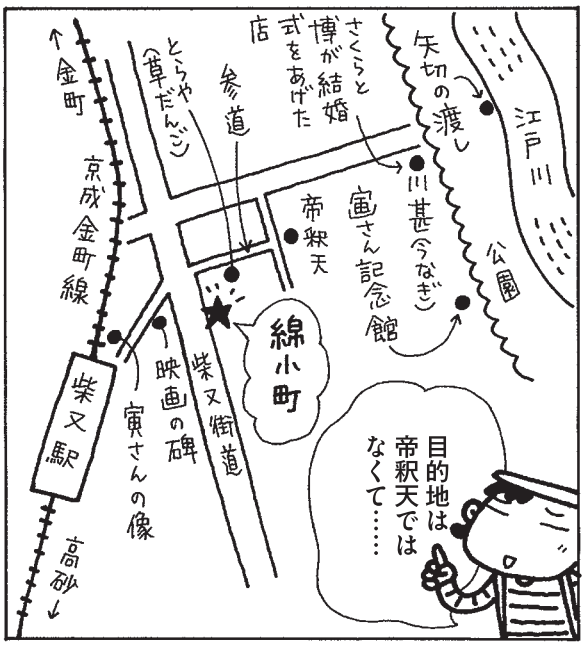
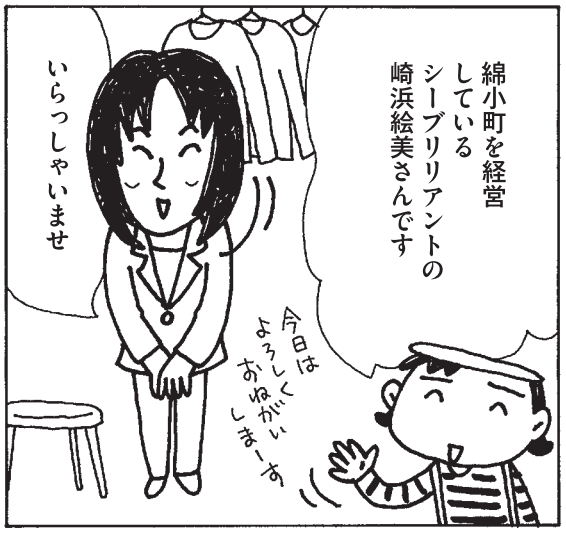
「綿小町（めんこまち）」の肌着にはいいことがいっぱい

有限会社シーブリリアント

葛飾ブランド「葛飾町工場物語（まちこうば）」





さっそく肌着を見せていただきます

綿100%の国産生地を使用しているんですよ

さわさわ

さわさわ

ん！

あらっ

先生っ これは例のモノじゃ

崎浜社長

この生地は

40番双糸のフライスですね

ええ そうです

よくご存じですね

実はワタクシ

マンガ家以外に

ポリポリ

服装家としてちょっとは知られた存在でして

NHK「おしゃれ工房」に出演したり

「通販生活」のソーイング教室で講師をやったりしております

さあ みなさん 次は ここを縫います よー

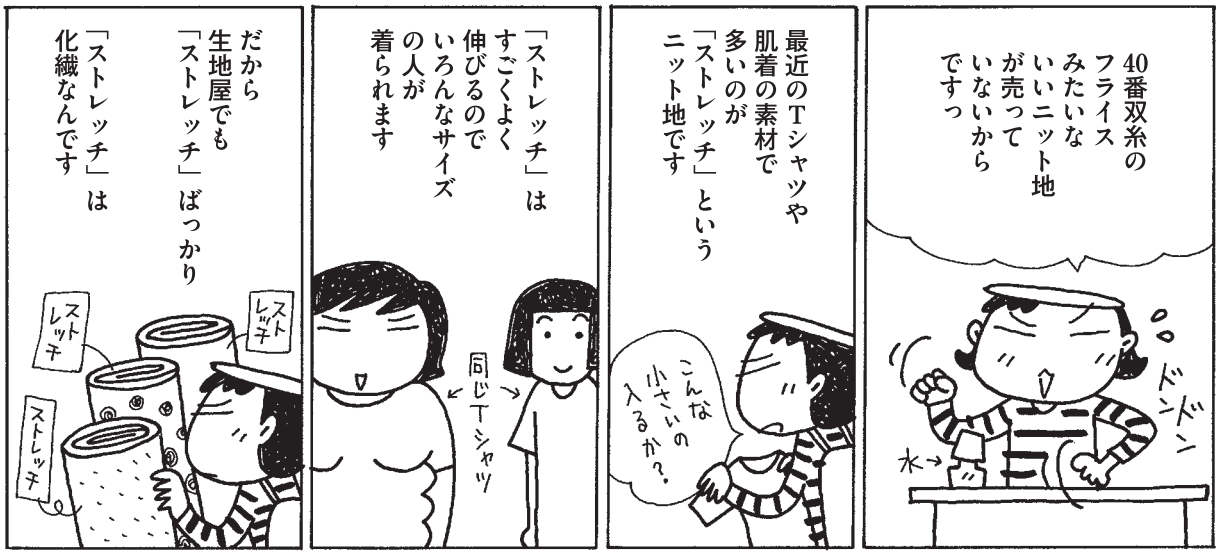
なので生地のよしあしを見分ける目は確かです

じゃあ洋服はご自分で？

今日も全身自作です～

はい 肌着以外は

肌着だけ自分で作らない理由は



※「綿小町」さんでは ショーツを「ショート」と表記しています。

いいわあ
いい
いい

ワタクシ
そういう肌着を
探していたんですよっ

ユサ
ユサ

年を重ねると
下腹にお肉が
ついてきます
でしょ

ポッ

特に私みたいな
大柄なおばさんの
おなかを

ギュウ
ギュウ

伸ばしている

おおってくれる
肌着って
なかなか
ないんですよ

おなかが
ショーツの上に
のっかってしまう

最近のショーツって
見た目優先で……

こういう
昔ながらの
「デカパン」が
欲しかったのよね

こちらの
「ショート」
が

うちの
いちばん
人気です

というわけで
テルさん
これ私から
還暦の
お祝い

事前に
社長さんに
おねがいして
包んでおいて
もらったの

まっかな
箱にリボン

きゅん

あら
やだ
先生ったら

あの
佐伯チズさん
も愛用してる
「赤肌着」シリーズの
フレンチ袖スリーマー
です

まあ

きれいな
赤

では改めて
「綿小町」の肌着の
よさをまとめましょう

綿100%の
国産生地

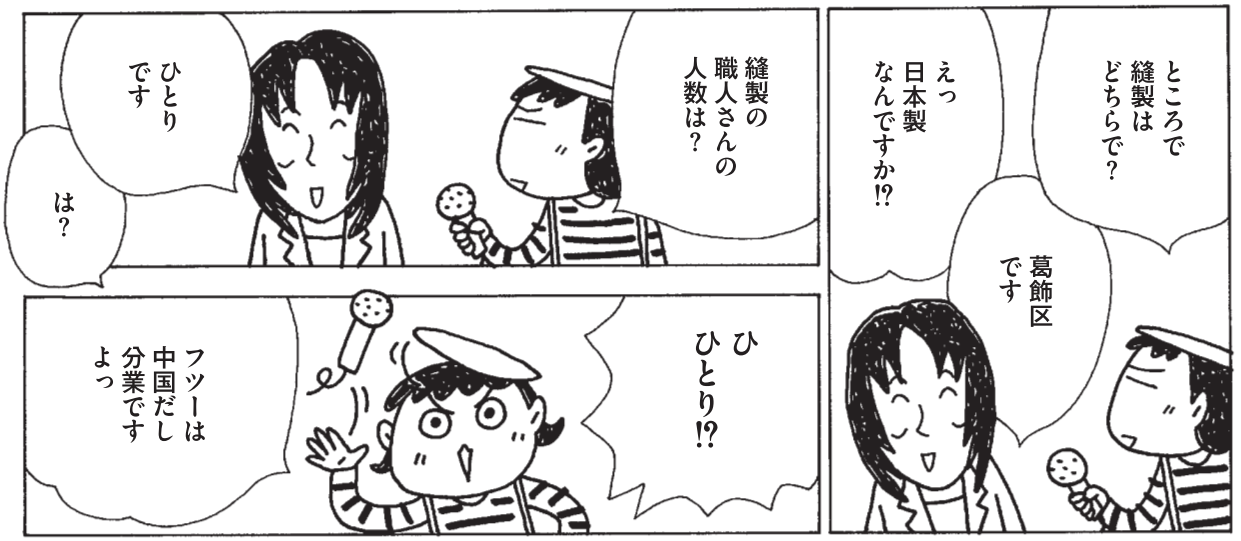
シンプルな
デザイン

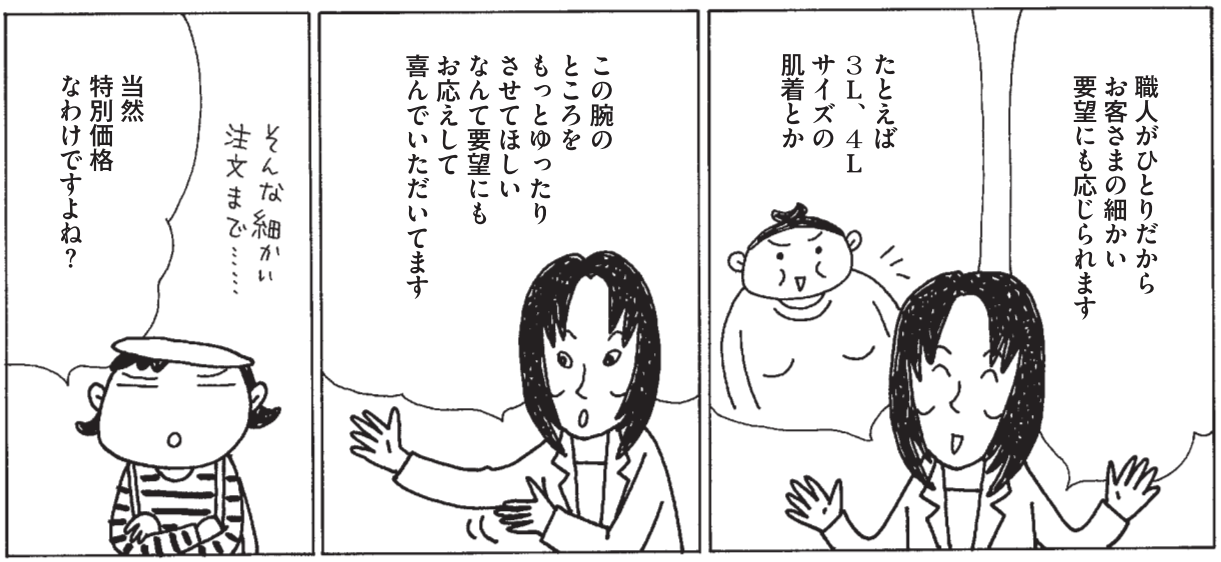
着丈が
長い

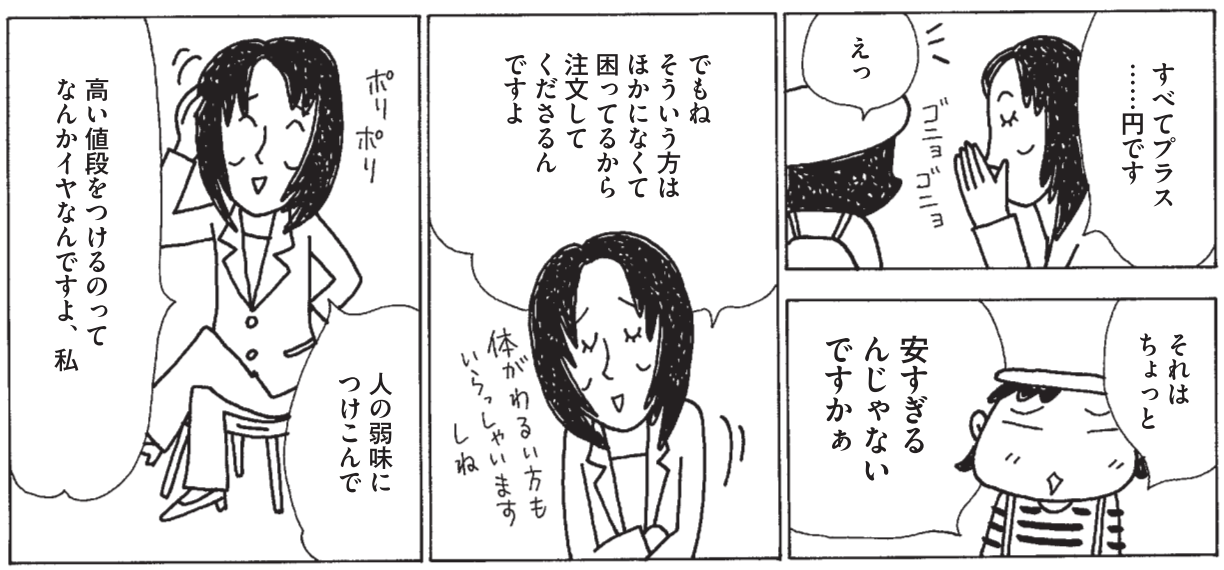
洗っても
ダランとしない
衿ぐり

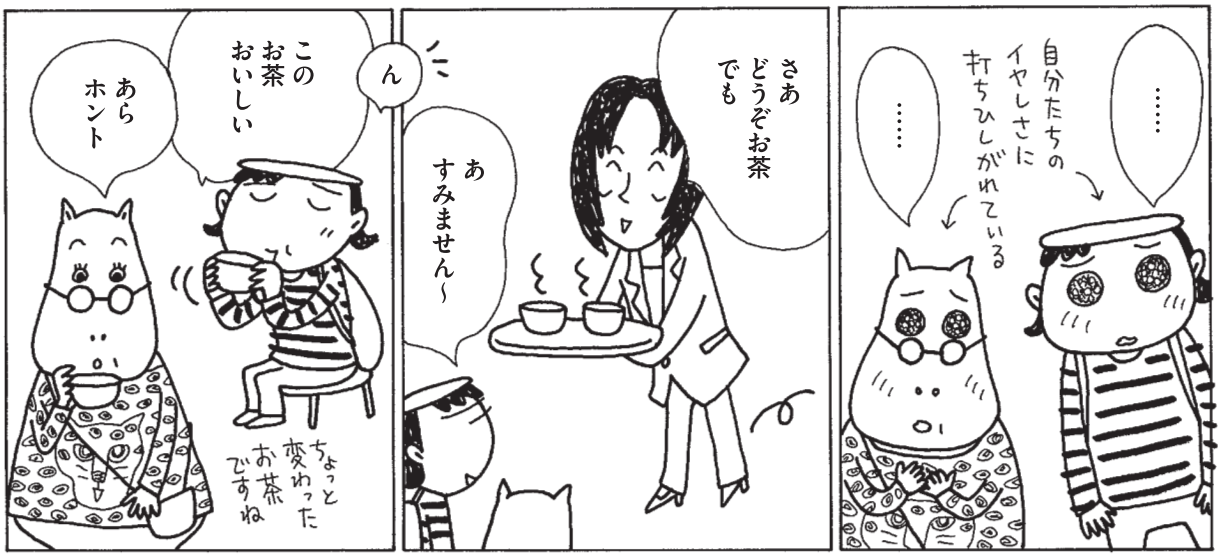
洗っても
へたらない
40番双糸の
フライス地

肌触りがいい


ところで縫製はどちらで？
葛飾区です
えっ日本製なんですか!?
縫製の職人さんの人数は？
ひとりです
は？
ひ ひとり!?
フツーは中国だし分業ですよっ


職人がひとりだからお客さまの細かい要望にも応じられます
たとえば3L、4Lサイズの肌着とか
この腕のところをもっとゆったりさせてほしいなんて要望にもお応えして喜んでいただいてます
そんな細かい注文まで……
当然特別価格なわけですよね？


すべてプラス……円です
ゴニョゴニョ
えっ
それはちょっと安すぎるんじゃないですかぁ
でもねそういう方はほかになくて困ってるから注文してくださるんですよ
体がわるい方もいらっしゃいますしね
ポリポリ
人の弱味につけこんで高い値段をつけるのってなんかイヤなんですよ、私


……
自分たちのイヤしさに打ちひしがれている
……
さあどうぞお茶でも
あすみません〜
ん
このお茶おいしい
あらホント
ちょっと変わったお茶ですね

毎日ショーツを1枚ずつ買って行かれるおばあちゃんがいらっしゃるんですよ
あるとき「あっ」と思いました
ショーツください
あらーいらっしゃいませぇ
世間話がしたいから来るんだって気づいたんです
もうなにも買わなくていいですから
「お茶だけ飲みに来てください」って言いたくてこのお茶を仕入れました

私、お店ってモノを売るだけの存在じゃないと思うんです
「綿小町」の肌着にはいいことがいっぱいありました
ゴーン
お年寄りが毎日立ち寄れる場所でもありたいそう思いますね
自分用にノースリーブとズボン下を買って帰ったのですが
40代にしてこの深い股上のトリコになってしまいそうです
うーん
あったかい
次は「デカパン」か……

KATSUSHIKA 町工場物語

認定

有限会社 シーブリリアント

ユニークな発想と熟練の融合が生み出す中高年用肌着の傑作

メリヤス肌着「赤肌着」「寅巻」「とことんコットン」

認定品名

メリヤス肌着
（赤肌着・寅巻・とことんコットン）

（有）シーブリリアントの中高年用肌着は、糸や染色も指定して作らせた綿100％の国産生地を使用。使い勝手の良いデザイン、経験豊かな職人による縫製などにも定評があり、リピーターも増えつつある。『赤肌着』は「赤い肌着を申（さる）の日に着ると健康に恵まれる」という言い伝えと、店舗の側にある柴又帝釈天が申（さる）に因（ちな）んだお寺であることから発案した、真っ赤な下着のシリーズ。7色のカラーバラエティが楽しい腹巻き『寅巻』も、柴又に因（ちな）んで命名した。「とことんコットン」は、オーガニックコットンを使用した肌着シリーズである。

赤肌着など、さまざまな肌着がにぎやかに陳列されている店内

有限会社 シーブリリアント

所 在 地 ：葛飾区柴又7-7-2（本社・店舗）
電話番号：03-5612-0839
代　　表 ：崎浜絵美
業　　種 ：中高年用肌着等製造・販売
従業者数：9名

柴又にある（有）シーブリリアントの店舗「綿小町（めんこまち）」

いわゆる『ババシャツ』ではない 中高年用肌着の提供を決意して創業

「寅さん」で有名な柴又の帝釈天参道商店街の入口の脇に、(有)シーブリリアントの経営する中高年用肌着専門店「綿小町(めんこまち)」がある。

創業は平成7年。崎浜社長は、父親が無店舗で行っていた中高年用肌着の販売事業を引き継いだ。「それまで、中高年用肌着といえばいわゆる『ババシャツ』しかなかった。昔の中高年とこれからの中高年とでは、嗜好も趣味も異なる。おばあちゃんでもおしゃれはしたいはず。これまでにない肌着を作って売っていこう」と決意を固めた。

さまざまな不愉快な経験に対する悔しさと怒りが事業を継続する大きな力に

すぐに店を持ちたかったが、資金がない。無店舗販売を5年間続けた。「女性起業家というのが最近のはやりだが、何もない状態から業を起こすのは大変だ。女性だからこそのいわれ無き差別もある。それまでにさまざまな不愉快な経験をしていたので、『こんちくしょう、いつか見返してやる』という強い想いもあった」。悔しさと怒りが事業継続の大きな力となった。

平成12年に現在地に店舗を構えることができたが、以後3年間は思ったほどお客が増えず、苦しい状況が続いた。4年前にテレビの取材を受ける機会があり、またエステティシャンで美容研究家の佐伯チズさんが同社製品を気に入ってくれ、雑誌など多くのメディアで製品を紹介してくれたことなども重なって、顧客が徐々に増えてきた。以後、ホームページによる通信販売の顧客やリピーターも徐々に増え、経営は安定する方向に向かっている。

熟練の卓越した技術と厳しい目が高品質製品の維持に貢献

(有)シーブリリアントは、平成16年に父の代から付き合いのあった職人を工場ごと受入れ、製販一貫体制を整えた。それ以前は製造委託を行っていたが、自分の思うものをすぐ形にするために、工場を保有した。これにより、顧客ニーズへの対応が一段と細やかにできるようになった。

縫製は、75歳の大ベテラン職人である三村氏がひとりで行う。三村氏はこの道51年。当初おしゃれな下着づくりを主張する社長に対し、「そんなものでは売れるはずがない」と猛反発。両者間で激しい議論が交わされた。「店に出してみると確かに売れなかった。中高年用肌着のデザインは、見かけより使い勝手が重要だと気付かされた。経験の長さはダテじゃないのだなと見直した」と社長は振り返る。

三村氏の縫製技術の確かさと良質な製品への強いこだわりも好評の要因のひとつである。「糸のほつれなどあったことがない。また、生地のちょっとした伸び縮みの違いにも厳しく、『そこまでこだわらなくても』と思うこともあるが、高品質を保っていられるのはこのこだわりがあればこそ」と社長は三村氏を評価する。

社長の高齢者への思いやりとヴァイタリティーあふれる今後の経営展開に注目

今後、店舗を増やしていきたいと考えているが、生産体制の見直しを図らなければならないことが課題である。また、三村氏が高齢であるため、技術継承の問題もある。「製造から行える強みを維持するため、製造を外部委託することは避けたい。別の職人さんを雇い入れるという方法もあるが、自分が技を学んで引き継ぐという方法もある。ここ2〜3年のうちに結論を出さなければならない」という。社長の高齢者への思いやりと経営へのヴァイタリティーにあふれる積極的な経営展開の行方に今後も目が離せない。

新小岩にある工場内の崎浜社長(右)とベテラン職人三村氏(左)。ユニークかつ高品質な製品群は、二人の活発な議論を経て生み出された